

| 羅 針 盤 | | | 方 策 | 第1回 点検・評価 | | | 第2回 点検・評価 | | |
|----------------------------------|--|---|--|---|-------------|---|--|-------------|---|
| 評価対象 | 評価項目 | 具体的数値項目 | | 自己評価 | 外部アンケート等 | 改善策 | 自己評価 | 外部アンケート等 | 改善策 |
| I 特色ある学校づくりに努めていますか。 | 1 特色ある教育活動を行っていますか。 | ① 自分の学校が好きだと感じている生徒が70%以上である。 | 一人一人の生徒が、達成感や自己肯定感を得られるように、授業や学校行事を進める。 学習内容の効果的な定着が図れる授業の展開と学習に集中できる環境づくりを行う。 | B | 生徒B 保護者A | 生徒の声に耳を傾けられる二者面談やアンケートの結果を生かし、行事の見直しや授業改善に努める。 | B | 生徒B 保護者A | 様々な体験学習を取り入れコースの特色を活かすことで、達成感を得られるような指導を今後も継続していく。 授業形態や学習環境維持に今後も努め、生徒の実態にあった指導を推進する。 |
| | | ② 習熟度別や少人数制の授業形態に満足している生徒が70%以上である。 | | 「総合的な学習(探究)の時間」「課題研究」、学年別体験学習・講演会等の機会に地域の方を講師として交流を図るとともに、地域に対する視野を広げる活動を推進する。 地域の団体・施設等と連携し、「ぐんまコミュニティー・ハイスクール事業」等の地域と連携した事業や諸活動に意欲的に参加した生徒が70%以上である。 | A | 生徒A 保護者A | 多様な生徒に対応できるよう授業内容を工夫し、生徒の充実度を高める。 | A | |
| | 2 地域と連携し、地域の教育力を活用していますか。 | ③ 「総合的な学習(探究)の時間」や学年行事等に、意欲的に取り組んだ生徒が70%以上である。 | 「総合的な学習(探究)の時間」「課題研究」、学年別体験学習・講演会等の機会に地域の方を講師として交流を図るとともに、地域に対する視野を広げる活動を推進する。 地域の団体・施設等と連携し、「ぐんまコミュニティー・ハイスクール事業」を積極的に推進する。 | B | 生徒A 保護者A | 結果に満足せず、今後より充実した内容(地域との連携を強化)になるよう、委員会を中心に対応する。 | A | 生徒A 保護者A | 地域に必要なとされる学校づくりを理念に改善を図り、地域の特長や財産を活用できるようにする。 |
| | | ④ 「ぐんまコミュニティー・ハイスクール事業」等の地域と連携した事業や諸活動に意欲的に参加した生徒が70%以上である。 | | ⑤ 「学び直し学習」や「学び合い学習」を取り入れた授業がわかりやすいと考えている生徒が70%以上である。 | B | 生徒C 保護者A | 地域との連携を深め、多くの生徒が関わることができる行事を検討する。 | B | 生徒B 保護者A |
| II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。 | 3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。 | ⑥ 多様な進路に対応した学習が役立っていると感じている生徒が70%以上である。 | 教員相互の授業参観や研修を重ね、授業改善に努める。また、生徒の学習状況をみとり、情報の共有化を図る。 学習習慣の確立や資格取得の重要性を保護者にも理解してもらい、積極的な取組を促す。 | B | 生徒A 保護者B | 考查問題の結果や評価を授業改善に活かす。また、授業アンケートの結果を活用し、授業改善に努める。 | A | 生徒A 保護者A | 新しい学習指導要領に対応できるように授業の形態や構成などの研修を行い授業改善につとめていく。 進学希望・就職希望と様々な進路希望に対し、個別の対応をさらに進める。 |
| | | ⑦ 授業に真面目に取り組んでいると自己評価している生徒が70%以上である。 | | ⑧ 学力の定着を図る指導を充実させ、学力が向上したと自己評価している生徒が70%以上である。 | A | 生徒A 保護者A | 資格取得に向けて、コース全体で取り組む体制を整備する。 | A | |
| | 4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。 | ⑨ 年3回以上の面談指導を行い、面談が役立ったと感じている生徒が70%以上である。 | 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業を実践する。 基礎的内容の反復から自ら考え解決できるようになるまで、それぞれの段階に応じた指導をする。また、個別の指導も推進する。 | B | 生徒B 保護者A | 授業規律の確保に努めるとともに、生徒が主体的に学習できる環境について検討する。 | A | 生徒A 保護者A | 引き続き授業規律の確保に努めながら、生徒の実態にあった学習環境の改善に努める。 |
| | | ⑩ 部活動に加入し、継続的に活動している生徒が50%以上である。 | | ⑪ 情報モラルや交通安全、健康に関する講話等が役立ったと評価する生徒が70%以上である。 | A | 生徒A 保護者A | 教科内だけでなく他教科との横断的な学習への取り組みを工夫し、指導計画の見直しを進めていく。 | B | 生徒B 保護者A |
| III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。 | 5 組織的・継続的な指導を行っていますか。 | ⑫ 欠席率5%以下、遅刻率3%以下である。 | 学期に1回担任との面談週間、スクールカウンセラーによる面談日を設け、生徒の変化に即応した相談・支援体制を整える。 設置する部活の精選、活動内容の充実に取り組み、生徒の充実感が得られる部活動づくりに励む。 生徒が自分自身のごとどして考えられるよう生徒の実態に合った講話内容を実施する。 | B | 生徒B 保護者B | 面談週間に限らず、授業・清掃・行事等での教師からの声掛けを実施してくとともに、スクールカウンセラーとも連携を図り、生徒の不安解消に努めていく。 | B | 生徒B 保護者B | 情報の共有化を図り全職員が不安をかかえる生徒への対応に努める。一方、スクールカウンセラーや外部機関との連携も深めていく。 |
| | | ⑬ 本校で定めた服装・頭髪に関するルールを遵守していると考えている生徒が70%以上である。 | | ⑭ 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。 | B | 生徒C 保護者C | 設置部活の精選、活動内容の見直しを行い、生徒の充実感が得られるような部活動づくりに励む。 | C | 生徒D 保護者C |
| | 6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。 | ⑮ 進路ファイル(含キャリアパスポート)に前向きに取り組んでいる生徒が70%以上である。 | 長期欠席の生徒には、保護者との連携を密にし、SCとの相談体制を強化して早期に対応できるようにする。遅刻指導に関しても継続して実施していく。 挨拶運動時に声かけ指導を継続して実施する。さらに定期的な服装頭髪指導を行い、基本的生活習慣の確立を図る。 | B | 生徒B 保護者A | 事故予測や病気の症例など身近な例を盛り込んだ講演会を実施した。今後も、学校生活に生かせる内容を工夫していきたい。 | A | 生徒A 保護者A | 遅刻指導は継続して行っていく。長欠者には密な連絡、家庭訪問などを行い、保護者との連携を強めていく。また、外部機関との連携も随時図っていく。 指導方法の改善をし、服装・頭髪指導の充実、授業規律の徹底、日常生活における声掛けなどを根気強く行い、生徒の規範意識向上に努める。 |
| | | ⑯ 「将来の職業」や「卒業後の進路」について前向きに考えている生徒が70%以上である。 | | ⑰ 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。 | A | 生徒A 保護者A | 遅刻については大幅な改善がみられている。今後も保護者やSCと連携し指導を継続していく。 | B | 生徒B 保護者B |
| IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。 | 8 計画的な指導を行っていますか。 | ⑱ 「学校の様子がよく分かる」と感じている保護者が70%以上である。 | アンケートや面談の機会に限らず、生徒からの申し出や情報に対応できるよう、いじめ対策委員会を中心として組織的に取り組む。また、生徒会を中心に登校時の挨拶運動を実施する。 進路等に関する記録を進路ファイルに保管させることにより、生徒の進路意識を高め、将来の進路選択に役立たせる。各学期ごとに進路行事を行い、生徒の進路に対する興味・関心を引き出す。 | B | 生徒A 保護者A | アンケートや面談の機会に限らず、生徒からの申し出や情報に対して今後も迅速に対応していく。また、組織的な対応を行うために職員間の情報共有を今後も日常的に行っていく。 | B | 生徒B 保護者C | アンケートや面談等による情報集約の徹底を行い、職員間の情報共有をより密に行うことで、早期発見・早期解決に努めていく。また、生徒が主体となっていく防止に取り組む活動を増やし、いじめを許さない心を育てていく。 |
| | | ⑲ 「卒業後の進路」について前向きに考えている生徒が70%以上である。 | | ⑳ 「進路のてびき」を家庭用にも配布し、生徒と保護者で進路に対する共通認識を深めてもらうよう働きかける。 | A | 生徒A 保護者B | 進路ファイルの取り組み状況についての確認を(進路指導部として)各学年に促していく。 | B | 生徒A 保護者A |
| V 開かれた学校づくりに努めていますか。 | 10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。 | ㉑ P T A関係行事への保護者の参加が40%以上である。 | WEBページや学校通信、電子メール等を利用して保護者や地域に情報を発信するとともに、授業を一般公開していく。また、全学年で三者面談を行い、学校と家庭で情報の共有化を図る。 定期的にP T A運営委員会を開催し、現状に応じた対応策を検討していく。 | B | 生徒A | 進路の行事を精選し、より興味・関心が引き出せるようにする | B | 生徒B 保護者A | 役立つ情報提供を心掛けるとともに、「進路のてびき」を積極的に進路学習に活用する。 |
| | | ㉒ 「卒業後の進路」について前向きに考えている生徒が70%以上である。 | | ㉓ 生徒の卒業後の進路について一度でも話し合いをした家庭が70%以上である。 | B | 生徒A 保護者B | 生徒の進路に対する現在の考えを家庭でも把握できるように工夫していく。 | A | 生徒A 保護者A |
| | 9 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。 | ㉔ 「学校の様子がよく分かる」と感じている保護者が70%以上である。 | WEBページや学校通信、電子メール等を利用して保護者や地域に情報を発信するとともに、授業を一般公開していく。また、全学年で三者面談を行い、学校と家庭で情報の共有化を図る。 定期的にP T A運営委員会を開催し、現状に応じた対応策を検討していく。 | B | 生徒B 保護者A | 家庭での話し合いの結果を、記録に残せるようにしていく。 | B | 生徒B 保護者A | 進路希望調査、面談等で生徒と保護者の進路希望をより正確に把握する。 |
| | | ㉕ 「卒業後の進路」について前向きに考えている生徒が70%以上である。 | | ㉖ 「卒業後の進路」について一度でも話し合いをした家庭が70%以上である。 | B | 保護者B | 行事後なるべく早い時期にWEBページを更新することで、保護者や地域への広報活動を充実させていく。 | A | 保護者A |
| | 10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。 | ㉗ P T A関係行事への保護者の参加が40%以上である。 | WEBページや学校通信、電子メール等を利用して保護者や地域に情報を発信するとともに、授業を一般公開していく。また、全学年で三者面談を行い、学校と家庭で情報の共有化を図る。 定期的にP T A運営委員会を開催し、現状に応じた対応策を検討していく。 | A | 保護者A | 学校・P T A役員・保護者間の連携を図りつつ、保護者への情報発信・呼びかけを継続していく。 | A | 保護者A | P T A行事への参加率向上に向け、行事の点検や見直しを行う。 |